

奉仕デーのことが記事になりました

6月の奉仕デーに、地域の読売新聞の記者が取材に来てくれました。

ほのぼの@タウン

*タウンリポーターの
コーナー

技術生かし街清掃

◆ 渋川 ◆ 水質浄化や環境緑化などの事業を手がける八木原の「高特」は2006年7月から清掃ボランティア活動を続けている。全社員が毎月1回、本社のほか、有馬にある機材センター、工事現場の3か所周辺を約30分かけて清掃する。

96回目となった6月の活動



橋に防錆剤を塗ったり草を刈ったりする社員たち

では、本社の社員12人が午前8時から作業を開始した。強い日差しを浴びながらも一丸となって八木原堤周囲の枝木伐採やトラックでの運搬、板張りの橋の防錆剤塗装、草刈り、関越道側道のごみ拾いなどに取り組んだ。レジ袋いっぱいのごみを拾い集めた設楽雅之社長(45)は「関越道下を横切る通路にごみが多い。たばこの吸い殻が一番多い」と話した。

八木原堤は水質汚染がひどかったが、同社が堤に浄化装置を設置したことで、子どもの釣り場としてよみがえり喜ばれている。また、安全に釣りができるように自治会と協力して堤に板張りの橋を架け、傷んだ板の交換もしている。

設楽さんは「建設業は、3K(きつい、汚い、危険)の職場と言われているが、技術を生かして地域に貢献できることは誇らしいこと」と話している。(蛭間初枝)

読売新聞 2014年7月18日